

『法華経』の一偈聴聞と小善成仏

白 景皓

（広島大学博士）

『法華経』「方便品（第二）」の偈頌〈過去仏章・仏滅後段〉（SP (2) vv. 78–97）で
5 は、衆生達は「小善」（些細な善行）により、「彼らはみな悟りの獲得者となった」（te
sarvi bodhāya abhūṣi lābhinaḥ）と説かれている。これは、通称「小善成仏」（些細な善
行により成仏すること）と言われる。その「小善」の中には、衆生達が教えの名前だ
けでも聴聞すること（v. 97: dharmanāmāpi śruṇiṃsu）が含まれている。これは、『法華
10 経』流通分（「法師品第十」から「如来神力品第二十」）に見る「一偈聴聞」（教えから
一偈頌だけでも聴聞すること）より一層些細な善行である。『法華経』「法師品第十」
では、一偈聴聞により衆生達が成仏するであろう（SP (10) [KN224.5–7]）と明らかに
されている。

しかしながら、『法華経』は「小善成仏説」を説いたが、その根拠を明示しておら
ず、一見それと矛盾する要素を示している。例えば、拙稿（白 2020: 421）が指摘した
15 ように、『法華経』流通分は、長時間にわたる修行を積み重ねた「歴劫成仏」^{りゃくごう}を背景
とし、修行なしに一瞬に成仏できるという「速疾成仏」^{そくしつ}思想を否定している。「小善」
は成仏の直接原因（因）か間接原因（縁）かについて、『法華経』を解釈した諸注釈
（例えば、龍樹『大智度論』、世親『法華経論』、道生『妙法蓮花経疏』など）及び先行
20 研究（例えば、横超慧日 1962、塚本啓祥 2004、津田真一 2007 など）は、独自の解釈
と理論付けを行っている。これらの諸宗派の主張に基づく解釈により、かえって『法
華経』「小善成仏説」の真意が見失われている。

したがって、本稿は、まずもって、『法華経』「小善成仏説」に関する諸解釈に焦点
を当てて考察を行う。その上で、『法華経』流通分に見る『法華経』の「一偈聴聞」の
価値を分析しながら、「一偈聴聞」という小善により成仏することの内実を明らかに
25 したい。

結論として、(1) インド撰述の諸論疏は、供養などの「小善」は成仏の因とはなら
ず、成仏の縁に過ぎないと解釈している。一方、中国注釈家の「小善成仏」という言い
方は、「小善によって成仏する」という誤解を招きやすい。(2) 『法華経』の修道論に
おける一偈聴聞の重要性から見れば、一偈聴聞は「小善」とは言えない。むしろ「大
30 善」であると言えよう。修行者は、『法華経』の一偈聴聞を通じて初めて、仏果に近づ
いている。(3) 『法華経』の一偈聴聞ないし成仏までの過程は、『般若経』の「歴劫成
仏」思想が変容されつつ、『法華経』の一乗により速疾成仏の思想が述べられている。